



十月から始まった企画展も終了し、多くの方に秋岡コレクションに触れていただくことができました。さて、そんなコレクション達役目を終えたそれらは、次の活躍のときまでどのように保管されているのでしょうか？

来館される皆さんからも「資料はどこにどのように保管されているの？」と、ご質問いただいていたので

以前、収蔵庫についてはお伝えしたので今回は資料がどのように保管されているのかそして、資料整理の方法についてお伝えしていきます

それでは秋岡コレクションの裏側を見てみましょう！

ちょっとその前に

秋岡コレクションのウラガワ

秋岡コレクションの資料整理に欠かせないキーワード

- ①どま工房研究員と資料整理の第一歩
 - ②データベースとブックレット
 - ③資料の梱包
- この3つのキーワードに沿って見ていきましょう



人と、木と、おけと



どま工房研究員と資料整理の第一歩

どま工房研究員は、秋岡コレクションの一括寄贈を受けた平成9年（1997年）の翌年、配置されました。

初代研究員は秋岡芳夫さんの事務所でアシスタントを務めていた増田倫子さんが、資料整理のために置戸へ移り住み、10年を越える年月の中で膨大な資料の整理を行ってきました。資料の分類やナンバリング、記録写真を撮り、紙資料にまとめていくという作業をほぼ1人で行っていたようです。

その後、研究員は2代目、3代目と引き継がれますが、基礎となる紙資料があったからこそ、現在もスムーズな調査が進められています。

どま工房研究員は秋岡さん

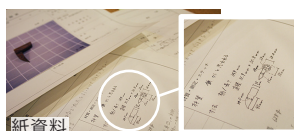
が残した思いに触れながら、その資料と一番近い所で、置戸の皆さんに伝えていく活動を続けています。



初代研究員 増田倫子さん



資料のナンバリング



紙資料

データベースとブックレット

6,500点の分類された資料はナンバリングされ、詳細情報は紙資料に記録されます。その後、更新し続ける資料情報を整理するために、それらはデータとしても保存されます。

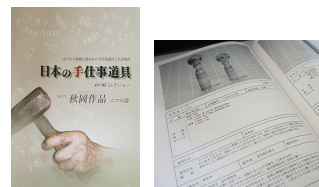
（データベース画面：右上写真）

秋岡コレクションのデータベースの一部は、置戸町デジタル郷土資料館にて閲覧できるようになっていますが、そのデータの全てはどま工房で管理しています。このデータベースに保存されている資料情報をもとに、ブックレットの編集は進められ、全28集を発行しました。また毎年10月から開催される企画展やその他の資料展示についても、同じくデータベースに保存され

ている資料情報から、関連される資料をまとめ展示内容を構想し実施されていきます。



秋岡コレクションデータベース



ブックレット：日本の手仕事道具集は平成30年全28集で終刊

資料の梱包

寄贈された資料は、鉋や鋸などの大工道具のほか、お箸や食器類といった生活用具に至るまで、種類も素材も様々なため、それぞれの資料に適した方法をとって保管されています。

大工道具などの刃物、食器や家具はどのように保管されているのでしょうか。普段はお見せすることのない、収蔵庫の中の中を見てみましょう。



刃物類は防錆紙（ぼうせいし）と呼ばれるサビを防止する紙で包み収蔵庫へ。



食器類は薄葉紙（うすようし）で包み、さらに緩衝材やマットなどで保護して箱の中へ。

秋岡さんは「観に来た人に触れて、使って、貸し出すモノの図書館として機能することができるなら」と、膨大な生活工芸資料、秋岡コレクションを置戸に寄贈してくださいました。資料として飾られ、照明が当てられるだけでなく、実際に使用されることで皆さんの気付きに繋がれるように、今後も資料を整理し、保管・維持していくことが重要とされます。